

イチジク疫病菌の感染時間と発病温度の関係

Miyake, N., Nagai, H.: Relationship between Temperature of Disease Development and Time of Infection in White Powdery Rot of Fig by *Phytophthora palmivora*.

イチジク疫病菌の遊走子によるイチジク果実の感染時間と発病温度を調査した。遊走子発芽の温度条件と時間は、遊走子懸濁液を摘下した V-8A 平板を 5℃～35℃の任意の 8 段階に保ち、2 時間、4 時間、6 時間、24 時間後に発芽率と発芽程度を調査した。4 時間後には 10℃から 35℃の範囲で発芽し、24 時間後の発芽率が 28℃は 95.0%、30℃は 96.0%で、発芽程度は 30℃が最も高かった。感染時間調査は、15℃、20℃、25℃、28℃の各温度で遊走子を接種し、2 時間、4 時間、6 時間、8 時間後に 70%エタノール液で果実表面を殺菌後水洗し、25℃に静置した。その結果、15℃2 時間接種では発病せず、4 時間以上ではすべての温度で発病果があり、20℃、25℃、28℃の 8 時間接種では 100%発病した。発病温度調査は、遊走子接種後に 15℃～35℃の任意の 6 段階に果実を静置した。その結果、20℃から 30℃で発病が認められ、発病最適温度は 28℃であった。イチジク疫病菌の遊走子による感染と発病に適した温度は 28～30℃付近で、菌糸の生育適温(28～30℃)と近似していると考えられた。

(愛知農総試)

赤字が訂正箇所です。座長確認済みです。

菌類病

発生生態

三宅律幸

noriyuki_miyake@pref.aichi.lg.jp

109230